

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	4	学校名	伊豆伊東高等学校（全日制）	記載者	小川 友和
------	---	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上 学科、類型ごとの特色化	・秋実施の到達度テストの再実施で学習到達度が上昇した生徒95%以上【1、2年生共】	B	B	
		・1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】	C	C	・学習への意識を、定期試験のクリアから将来の目標へと向かうようにし、入試が必要でない生徒にも学びの幅を広げていきたい。 ・測定期間を知りたい。また、この目標では、例えば平日に0時間で、日曜に7時間学習すれば、その週は1日1時間学習したことになる。定着を目標にするなら、「平日1日」の家庭学習にした方がよいのではないか。 ・学習時間については本人の気持ちが左右するため、勉強環境づくりが大事なのではないか。 ・1年生の学習時間の減少が目立つ。その理由と解決に向けた取組が必要。
		・「授業がわかる」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	・「わかる」→「教師の説明が理解でき、大切な事項を覚えた」→「自分の頭で考えて解決でき、授業内での成長が実感できた」と思える授業を目指してほしい。 ・「授業がわからない生徒」はどうしているのか？ サポートがあるとよいが。
		・「スタディサプリを活用した学習は有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】	C	C	・教員の年齢による開きを埋めるため、活用が堪能な教員のノウハウを周知していくのも一法と思われる。 ・活用しなかった理由を生徒に聞いて改善すべきではないか。 ・「線」の学習にならず、「点」の学習になっているのではないか。実施について要検討。
		・受検実績が1人1回以上【普】 ・卒業時検定取得2種目以上【商】 ・放課後等検定補習実施【商】	B	B	・検定合格のメリットを生徒の将来展望と照らして教え、「すべて受検」でなくても選択的に取り組ませる等も大切。 ・強制ではなく、必要性を理解してもらうことが大事ではないか。 ・いつ、何級を合格するか道筋が描かれているか。他校との比較はできるか。

ア	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間設定【共】 ・一人年3冊以上の読書【共】 ・図書館を利用した授業や講座を校内全体で月3回以上実施【共】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3冊では設定が低すぎる。「世の高校生が多く読んでいる本」を紹介する等、授業でも働きかけてほしい。 ・スマホやタブレットの普及により、活字離れが進んでいるので、もっと増やすように努力してほしい。 ・読書に替わる様々なコンテンツがあるので「何のための読書なのか」と目的をはっきりさせた方がよいだろう。 ・タブレット等での読書は行っているか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1月進研模試(国数英)で平均GTZがB1以上(1・2年生)の生徒70%以上、2年2月マーク模試から共通テストの得点が100点以上上昇した生徒80%以上(3年生) ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 <p>【普・特進】</p>	B	A	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 <p>【普・進学】</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・何をもって学習意欲が上がったと言えるのか。「関心のある本を読んだ」「卒業後の進路への参考になった」「自分の長所を感じる事ができた」など。 ・どのような授業や行事を通じて意欲が上がったのかを知りたい。 ・大人でも分からないことなので、自己理解ができていると思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「アート類型に設置された専門の授業により、アートの専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 ・全国レベルの大会やコンクール出場2件以上 <p>【普・アート】</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各方面で数々の受賞を得ており、指導者の力量を感じる。 ・全国レベルやコンクールで自分の立ち位置を知る事は素晴らしいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ健康類型に設置された専門の授業により、スポーツ健康に関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 <p>【普・ス健】</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・回数は少ないが、授業を参観した限り、生徒は楽しみ、協力して運動しているように感じた。

様式第5号

ア		<ul style="list-style-type: none"> ・「商業科目の授業により、ビジネスに関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 ・全国レベルの大会出場2件以上 <p>【商】</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞等で、各業種において生徒の工夫したアプローチが見られた。生徒が開発したドレッシングを購入したが、とてもおいしかった。 ・全国レベルの大会が目標になると、生徒の活動意欲につながるの、積極的に参加してほしい。 ・自分の現在値を知る機会は、多いほどよいと思う。
イ	<p>心身ともに健康的で他者を思いやる生活</p> <p>特別支援学校との積極的展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「服装を正し、礼儀やマナーをわきまえて行動している」回答生徒割合90%以上【共】 ・「地域や近所の人と会うとあいさつをしている」回答生徒割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導で体育館に入ると、関係する部活動以外の生徒まで大声であいさつをしてくれる。また、荷物が多い時などは、体育館入口を開けてくれる生徒もいて、感心させられる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率90%以上【共】 ・年間欠席日数10日以内、遅刻早退については年間合計日数10回以内の生徒の割合90%以上【共】 ・「健康的で他者を思いやる生活ができている」回答生徒割合85%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「安易な理由による欠席」について、自分では安易な理由と思っていない生徒に対し、「その理由は安易だ」と納得させていくしかない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活サポートシート等を活用した「生徒情報交換会」学期1回【共】 ・「悩みに応じてくれる先生がいる」80%以上【共】 ・いじめアンケートを年2回実施【共】 ・「自分を理解し大切にしてくれる友がいる」回答生徒割合90%以上【共】 ・「目標を持ち、充実した学校生活を送っている」回答生徒割合85%以上【共】 ・「学校に自分の居場所があると感じる」回答生徒割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と帰宅後の行動が異なる生徒や、SNSでストレスを解消し、友人を痛めつける生徒などの動向をつかむのは容易ではないだろう。日常的に教員に相談しやすい雰囲気を作っていくのが何より大切と考える。 ・気にかけている、見て見ぬふりはしない、という大人の姿勢を見せることが大事かと思う。アンケートは続けてほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「共生・共育を通じて多様な価値観を受容する大切さがわかったと感じる」回答生徒割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習ではあまり意識せぬ「周囲のために動く大切さ」を文化祭・体育祭等で感じていると思う。

様式第5号

ウ	キャリア教育の展開による生徒個々の進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・進学か就職かを決めている割合80%以上(1年)【共】 ・興味のある学問・職種がある生徒の割合80%以上(1年)【共】 ・進学の場合の校種や内容、就職の場合の職種を決めている割合80%以上(2年) ・「進路実現に向けての面接指導や教員による個別指導が役に立った」回答生徒割合80%以上【3年共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「進学か就職か」とともに、将来地元を出るか残る(帰る)かということも生徒には頭をよぎる事柄であろう。廊下等に進路関係の資料を置いてあったが、活用してほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・検定等資格を活用した大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等による受験者数の昨年度比増加【商】 	—	—	
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験参加者のうち、「職業体験は将来の生き方を考える上で有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験先への配慮が大変だが、世間の水を体感させる事は意義深い。 ・職業体験は本当に良い取組だと思う。
エ	探究的な学びの展開 地域・保護者に愛され、信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間(みらい学)の取組で情報収集・分析力が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「総合的な探究の時間(みらい学)の取組で課題発見力、解決力が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「総合的な探究の時間(みらい学)の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えようになった」回答生徒割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の対応(個々の生徒への指導や外部との折衝)が過重負担とならないような工夫も必要だろう。生徒は学校での学習のみで総合的な探究の時間を学んでいるのだろうか? 家庭で資料を見ながら計画書を作っていくこともあって良いと思う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「『課題研究』に取り組んだことでコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高まった」回答生徒割合80%以上【3年商】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中に市役所や商工会議所に行き、同所に就職した生徒の活用も今後できるだろう。
		<ul style="list-style-type: none"> ・公式X、インスタグラムのフォロワー数昨年度比1.5倍 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい成果である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生1日体験入学に参加してよかった」回答参加者割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・市外進学が増えていく現状で、体験入学は貴重な取組と考える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「本校は、社会に開かれた学校運営がなされている」回答学校運営協議会委員80%以上【共】 	—	A	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれている。 ・まだまだできることがありそうである。今後に期待する。

様式第5号

オ	特別活動、部活動の活性化	・「リーダー研修会に参加してリーダーとしての自覚が高まった」回答割合90%以上【共】	A	A	
		・「各行事は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	・学校祭の満足感の高さを感じた。文化部の活躍の場としても向上を期待したい。
		・「修学旅行は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	・インフルエンザ流行の時期には十分気をつけさせたい。
		・「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合75%以上【共】 ・「部活動下校午後7時」(原則)の徹底【共】	A	A	・中学校部活の地域展開を視野に入れ、今後指導者との関わりも生じてくるだろう。より専門性が高まって私立高校への流れも加速するだろう。
		・「生徒会、部活動、自主的な活動等を通じた地域貢献活動、ボランティア活動に参加して活動の意義を実感した」回答割合70%以上【共】	A	A	・風の強い日など、生徒が教員と共に落ち葉などを掃いていて素晴らしい。
カ	データサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム等の構築	・「データサイエンスに興味関心を持った」回答生徒割合70%以上【2年普・進学・アート】 ・「データサイエンスの手法を用いて探究的な学習に取り組むことができた」回答生徒割合50%以上【1、2年】	B	B	・データサイエンスを活用することを学校全体で考えていくことが、これからの取組に関わってくると思う。 ・レコーダーの活用について生徒から意見を聞いてみたい。
キ	「育てたい力」伸長の検証	・「学びみらいPASSや新たに作成したルーブリックを用いた生徒の自己評価は生徒の成長を測定するツールとなった」回答教員割合80%以上	C	C	・ツールの使い方がよく分からないが、効果が上がるものなのかどうか。 ・伸びしろが視覚化できるなら、なるべく活用してほしい。
ク	教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善	・「校内研修により授業力向上につながった」回答教員割合80%以上 ・「他の教員の授業見学により授業力向上につながった」回答教員割合80%以上	B	B	
		・「ICTや一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合80%以上【共】 ・「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合95%以上【共】 ・「一人一台端末の活用が有意義だった」回答1、2年生徒割合70%以上【共】	A	A	・授業参観の折、端末を活用して個々の課題を解決しようと意欲的に取り組む姿が見られた。反面、講義調の授業が殆どで、生徒が発言し意見を交換していく学びを見たかった。入試もあり、インプットの授業が多い事はわかるが、生徒の多様な考えを生かす学習も増やしたい

様式第5号

ク		<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼できる先生がいる」回答生徒割合80%以上【共】 ・「年次別研修に参加して有意義だった」回答教員割合80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼できる先生」が82.5%ということは、17.5%は信頼できる先生がいないということか？ 「困った時に相談しやすい先生がいる」ではどうか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「常にコンプライアンス意識を持って職務に臨んでいる」回答教職員割合100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の不祥事は、多くが生徒や保護者とのトラブル。ボタンの掛け違いに気をつけ、共同体制で対処したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の夏季休暇完全取得100%【共】 ・「平均して週1回以上は勤務時間終了後1時間以内に退勤できた」回答教職員割合100%【共】 ・「平日の完全退勤時刻20時を原則的に守ることができた」回答教職員割合100%【共】 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・休んで仕事が積み重なると退勤できない日に長く学校に残ってしまうこともあるので、業務内容の精選や効率化のアイデアも出し合うと良いと思う。 ・超過勤務の慢性化に注意が必要。管理者の指導のみならず、組織全体でライフワークバランスに取り組むべき。人によるものか業務量によるものかジョブローテーションによる見極めも必要。 ・教員の体調管理が最優先であるような意識づけが引き続き行われるとともに、業務のスリム化もより一層期待する。DXの活用ができるか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「校務のDX化が年度当初より進んだ」回答教職員割合80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の負担軽減できる今一番頼れる取組だと思うので、最初は大変だが、しっかりと時間をとって行ってほしい。 ・他校に加えて他業種の活用事例も参考になるだろう。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「職員室をはじめ新高校が働きやすい環境になるよう留意した」回答教職員割合90%【共】 	A	A	
ケ	安心・安全で快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の安心安全を第一に教育活動を実施することを意識している」回答教職員割合100% ・「安全や防災に関わる講習や研修に積極的に参加している」回答教職員割合100% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生で消防署に就職している者もあると思われるので、今後研修で活用するのも良いと思う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の地域防災訓練参加率90%以上【共】 ・「家庭でも大規模災害に備えている」回答生徒割合80%以上【共】 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に対して「高校生が行って欲しい訓練での行動」を尋ね、仕事を与えるのも一法だと思う。 ・参加率の低さは、熱中症対策のため、やむをえない事情であると思う。 ・地域訓練も集まりが悪く、市全体で考え直した方がよい。

様式第5号

ケ		<ul style="list-style-type: none"> ・「校舎をきれいに、施設や備品を大事に使うように心がけている」回答生徒割合90%以上【共】 ・「ごみを出さない、ごみをきちんと分別する、電気をこまめに消す等、環境を守ることの大切さを理解した行動をしている」回答生徒割合80%以上【共】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員が共に清掃している姿をよく見る。本年度は突風の影響で運動場や駐車場が汚れ、大変だったが、安全に片付けられて良かった。
コ	<p>確実に効果的な学校事務執行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「事務室と職員室との連携がよく取れている」回答教職員割合80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室の職員の方々の対応は丁寧で、気軽に声を掛けられる。